



流山本町の 活性化について

公明党 野村 誠

問 切り絵行灯について、さまざまな事情により、現在はほとんど制作されていないと聞いている。年数が経過した切り絵行灯の更新や切り絵行灯づくりの後継者など、さまざまな課題があると考える。これらの課題について当局の見解を問う。

答 経済振興部長 現在、流山本町地域に120基の切り絵行灯が設置され、これを見ることを目的に多くの方が訪れ、まちの活性化につながっています。課題については、切り絵行灯が設置後10年以

上が経過したこと、切り絵行灯の劣化と制作技術の継承が挙げられます。劣化した切り絵行灯は、株式会社流山ツーリズムデザインで老朽化調査と修理を請け負う仕組みづくりを検討中です。技術継承については、現在40回の切り絵講座を開催し、技術の普及に努めています。令和6年度には、上級者向けの講座を予定しており、高い技術を習得した生徒の中から、後継者となる人材が発掘できればと考えています。



地域支え合い活動の実態と取り組みについて

流政会 青野 直

問 流山市地域支え合い活動は、各自治会が中心となっており、地域とのつながりの形成において、最も効果的な取り組み事例は何か。今後、市が各自治会に積極的に取り組んでもらうべき施策などについて問う。

答 健康福祉部長 把握している一例としては、自治会の支え合い活動担当者が見守る方を数名ずつ分担して受け持ち、見守られる側が構えないよう改まった訪問をせず、ごみ捨てやバスで出かけたときなど、生活範囲内



ごみ収集運搬の委託は ブラック企業の排除を

阿部 治正

問 仕様違反や法令違反を繰り返すブラック企業の参入を防ぐためには、市が失敗を反省し姿勢を正すことが大前提。その上で、市・健全な事業者・現場従業員たちとの連携が必要ではないか。また、現場の声を聞き、事業の総括をすべきではないか。

答 環境部長 今後の市の再発防止策として、定期的に市と事業者が相互の情報を交換することも、課題の改善や法令に基づく適正な履行を目的とした研修などを行う場を、一般廃棄物収集運搬

事業者で構成されている流山環境保全協同組合に提案し、研修を実施していきます。また、現場の声もしっかりと聞いていき、反省すべきところはきちんと反省してやっていきたいと考えています。



罹災証明発行システム 導入の進捗について

流政会 鈴木 ゆうすけ

問 前回(令和5年第四回定例会)で提案しました、住民が災害に遭った場合の被災者支援システムの導入に関して、前向きな答弁をいただいていた。その後の進捗とお答えください。

答 市民生活部長 令和5年第四回定例会閉会後、被災者支援システム開発業者と協議を行い、令和6年1月24日に罹災証明発行担当課である資産税課や建築住宅課、社会福祉課などと研修を行う予定でしたが、令和6年元



ペット同行避難について

公明党 桑畑 伴子

問 ペットは家族の一員で、大切な存在である。令和6年能登半島地震により、防災への関心が高まり、ペット同行避難が必要な災害が起きた場合について、不安な声があった。そこで、平時の避難訓練にペット同行避難も導入してはどうか。

答 市民生活部長 平時のペット同行避難訓練については、市総合防災訓練における避難所開設訓練の場で実施してまいります。また、自治会が開催する防災訓練においても、ペット同行避難訓

練を行うよう周知してまいります。



流山ツーリズムデザインの 総括と今後を問う

自由民主党 中川 弘

問 流山ツーリズムデザインは多くの問題が生じ、実質的に破綻していると言わざるを得ない。これまでのさまざまな指摘にもかかわらず、漫然と事業を継続させた市長の責任は重い。その総括と、今後の事業をどのように進めるのか市長に問う。

答 市長 流山ツーリズムデザインは厳しい経営が続いており、筆頭株主として責任を感じています。市では、財務状況を定期的に報告させた上で問題点を指摘し、経営改善を求めてきました。一

方で、相続で失われそうになっていた国登録有形文化財の寺田園旧店舗を自己資金で購入し、流山本町の景観保全に寄与したほか、日本最大級の万華鏡イベントの誘致や、一茶双樹記念館の夜間を活用したイベントを開催するなど、地域と連携した客数の増加に寄与したことは評価できると考えています。令和6年1月1日に就任した新社長の下、経営改革に努めていると報告を受けており、市としても共に経営改革に取り組みでまいります。



江戸川河川敷野球場の 再整備について

流政会 石原 修治

問 江戸川河川敷野球場について、多くの利用者からピッチャーマウンドとホームベース周辺や各塁周辺の再整備の要望を側聞しているが、当局は現状と再整備の必要性をどのように捉えているのか。

答 生涯学習部長 これまで施設の更新要望を受け、令和2年度に仮設トイレス基、倉庫3基を更替しました。令和5年秋には、各グラウンドのピッチャーマウンドと各ベース周辺の整備要望があり、現場の状況を確認し、

対応を検討してきました。ピッチャーマウンドとベース周辺の土が低下している状況については、指定管理者に確認したところ、定期的に新しい土を入れ補修しているものの、石化し硬くなった古い土に新しい土がなじまず、すぐに周辺に飛び散って元の状況に戻ってしまうとのことでした。対応方法を検討した結果、新しく投入する土がなじむよう、中規模な掘削と攪拌工事が有効と考え、令和6年4月末までに整備するよう調整しています。



市の持続的な 小児科医療体制構築に向けて

流政会 小沢 えみり

問 全国的な小児科医師不足や働き方改革の影響から、流山市も小児科医療が逼迫しているように感じられる。①流山市が第一に行うべき役割は何か。②保護者が医療を利用する際に必要な知識は何か。また、市ができることは何か。

答 健康福祉部長 ①小児医療の逼迫を防ぐための市の役割として、適切な医療のかかり方などの周知啓発が必要です。その他、本市の人口増加などを踏まえた病床の必要性の県への要望や、特に

不足している小児科の誘致に取り組みでいます。②夜間の急な症状の受診の目安として、特徴的な症状、受診のタイミング、応急処置方法やホームケアについて、市ホームページや広報がれやまに掲載し、健康教育や両親学級、訪問などの機会に周知啓発を行います。また、重複予約や休日・夜間の急を要さない受診を控えるよう保護者に呼びかけ理解を得ることも、真に必要とする方が受診できる体制を構築するために必要と考えています。